

令和5年度水産研究所研究成果発表会について

水産研究所では「豊かな海・川の実現と魅力ある水産物の消費拡大」を目標に、水産資源の回復や養殖業の安定を図るための調査研究に取り組んでいます。その成果を広く県民に紹介するため、令和6年3月12日に発表会を開催したところ、漁業関係者をはじめ、大学等教育関係や企業の関係者、高校生を含む一般の方など約70名のご参加をいただきました。

この発表会では4課題の口頭発表を行い、最初の「岡東浄化センターにおける栄養塩管理運転の影響調査」では、シミュレーションモデルにより周辺海域の栄養塩の上昇効果を検証した結果等を報告しました。

続いて、「地魚をもっとおいしく食べるには」では、クロダイの呈味等を季節ごとに分析した結果や加熱調理法の違いによる呈味成分の変化の違い、さらに締め方の違いによる鮮度保持効果の差について報告しました。

さらに、「岡山県におけるマダコ種苗生産技術開発」では、本種の生態に応じた飼育装置の大型化に取り組み、量産技術を確立したことや水温により産卵およびふ化時期を制御する技術を開発したことを報告しました。

最後の「岡山県産天然由来アユの量産に向けた親魚養成及び採卵技術の確立」では、遡上アユを閉鎖循環飼育下で電照等により早期成熟を促して人工受精卵を作出する技術を確立し、量産規模で生産が可能となったことを報告しました。

また、会場後方において「岡山県海域における簡易なガラモ場再生手法の検討」、「クロダイによる養殖ノリ食害対策に関する研

究」、「近年の養殖マガキの成長に影響を及ぼす環境要因の検討」、「ダム湖の陸封アユを増やす取組」のポスターを展示し、休憩時間等を利用して担当者から参加者に説明を行いました。

発表に関する質疑では、クロダイの消費拡大に向けた方策に関する質問をはじめ、各成果に対して活発な議論が交わされる一方で、県産天然由来アユの種苗生産を是非実現してほしいといった激励もいただきました。

また、アンケート調査では発表課題の研究は重要で更なる成果を期待するといった意見や最近のトピックスである貧栄養対策やガザミの資源増殖、ノリ・カキ養殖に関する研究要望をいただきました。

この度、発表会にご参加いただいた皆様の意見や要望を踏まえ、今後より一層水産研究に対する理解や関心を深めていただけるよう情報発信に努め、本県水産業がさらに発展するよう現場の課題解決に資する調査研究を推進してまいります。（栽培・資源研究室 中力）

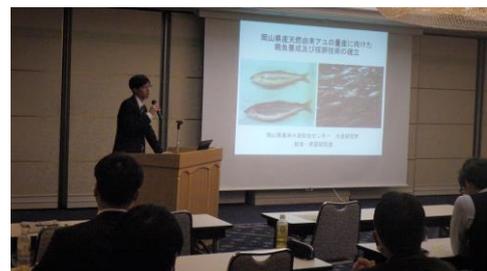


写真1 口頭発表状況



写真2 質疑の状況